

東京女醫學會第9回總會特別講演要旨

腰痛の整形外科方面

東京女子醫學專門學校整形外科教室

教授 内田 辰雄

腰痛は臨牀各領域の疾患から類發する疼痛の一つであるが、整形外科でとりあつかつてゐる脊柱の方面ではどんな疾患をその原因と考へてゐるか、次の3項に就て少しく述べ様と思ふ。

1. 診斷上の留意點

イ、腰椎部に變形があるか否か

變形があるとすれば如何なる變形かを吟味しなければならぬ。後彎の發生があれば、腰椎カリエスその他脊柱の器質的變化の存在することがわかる。又時として階段狀變形を認めることがある。これは脊椎前方脱出症を疑はしめる。

ロ、腰部に腫瘤その他著明の異常があるか

最も注意を要するのは寒性膿瘍の出現である。腰三角あたり、腰椎カリエス等に出現する膿瘍部位を警戒する必要がある。異常色素沈着とか、多毛症とかを腰椎下部に認めた場合は潜在性脊椎破裂の存在を疑はねばならぬ。

ハ、腰椎部の打痛壓痛

脊柱の器質的變化なくとも、著明の打痛壓痛を訴へることは多い。脊椎疾患の多くは之を以てはじまる。

ニ、運動制限

脊椎の運動制限にも色々ある。後方へは異常ないが前方へ著明に制限をうけるものでは所謂筋肉ロイマチスが多く、前方へよりも後方への方が強く制限をうけるものに棘狀突起間關節形成症などがある。あらゆる方面に障害をうけるものでは、カリエスを第一に疑ふ。

ホ、客觀的所見陰性的もの

この場合でもレ線撮影で意外の變化を發見することがある。脊椎分離や、腰薦移行椎など之である。

2. 腰薦部レ線像の種々相

イ、薦骨岬角

ロ、腰薦移行椎

ハ、潜在性脊椎破裂

正常健康人でも、しばしば第5腰椎或は第1薦椎の後方椎板が骨性癒合を缺如することがある。之と潜在性脊椎破裂を混合してはならぬ。

ニ、脊椎分離及脊椎前方脱出症

本症は上下關節突起間部に於て骨性連絡を缺くものであるが、之を最もよく認むるためにはレ線撮影時の體位を特有な位置におく必要がある。側臥位から約 30° 仰臥位に廻轉せしめた位置が一番よい。

ホ、腰椎棘状突起偏倚

ヘ、慢性炎症脊椎炎

腰椎カリエス初期のレ線像は椎間間隙の狭小と之に隣接する脊椎の境界が鮮明である。次第に椎體の破壊が現れる。尙腰椎部ではその兩側に大腰筋外縁をはつきりと認めることが出来るが、之の外縁像により、腸骨窩寒性膿瘍の初期を認め得ることがある。

チフス性脊椎炎では初期に於ては椎間間隙の狭小と之に接する椎體縁の不鮮明であるが、間もなく強度の骨増殖をおこす。

梅毒性脊椎炎では椎體に強い骨破壊がおこると同時に、之と平行して強い骨増殖を認める。

強直性脊椎炎の初期は側關節の間隙狭小を認める。この間隙は次第に消失し、椎體の陰影は稀薄となる。更に關節突起端には著明の骨増殖を認めることがある。之と共に棘起上靭帯、棘間靭帯、黃靭帯等に化骨現象が現れ、椎體は不鮮明となる。

變形性脊椎症、最も強い變化は椎體の前縁におこる。側面像に於て椎體の高さはやや減少し、椎體前縁上下隅に唇状、嘴状の變形増殖がおこり、時に之が橋状に上下癒合することもある。椎體には萎縮が見られる。

脊椎腫瘍、脊椎癌には骨増殖性のものと骨破壊性のものがある。しかし兩者とも、椎間間隙が消失しないことが特長である。正常か又正常よりも廣くなつてゐることがある。

脊椎肉腫では椎體陰影の缺損、骨破壊、時には腫瘍そのものの輪廓をはつきり認めることがある。この場合も椎間間隙はせまくなる。

3. 所謂腰部ロイマチス

本症は最近特に工場災害の一つとして重要視されてゐる。疼痛部位が一定してゐる點に第一の特長がある。上臀皮神經が薦棘筋を貫通し腰三角に至る附近に限局性の疼痛を證明することが多い。重症激性のものに手術した所見によると、疼痛部位の筋肉に漿液滲漏或は凝固などを認め、ここを貫通する神經の異常過敏性がある。

治療法の一つとして Vit. B₁ の脊髓液腔内注入がある。非常に有効である。

追 加

堤 辰 郎

婦人科を訪れる患者にて腰痛を主訴とする者が非常に多いのでありますが、婦人科的にも整形外科的にも X 線的にも證明せられる所見が無いので困ることが相當に多いやうにありますから、向後は内田教授のお話にあつたやうに各科連絡して本問題の治療法を研究すべきであると思ひます。

答

内 田 辰 雄

只今堤教授の御追加にもありし如く、腰痛はあらゆる方面より發生するもの故、その解釋、闡明には臨牀各科の緊密なる横の連絡を必要とすることを痛感す。

追 加

哲 翁 た ま よ

内田先生の御講演は實に結構でうれしく存じました。私の患者にも腰痛を訴へるもの多く、その中の一例に後傾後屈症を全治せしめたるも腰痛に變りなく、レントゲン検査を行ふも變化を認めず、營養體格優良にして他の科の専門醫の診察によるも變化なしと云はれしものが、一ヶ年後に脊椎カリエスを證明せり。

尙又防空演習後に急に腰痛を訴へて來るもの多く、その最も多き原因は後傾後屈症を起せるものなりき。

追 加

野 見 山 和 子

四十グレ或は神経痛の主訴にて來院せるもの 150 例中ロイムゾール局所用を壓痛部位に深く反應のある程度(痛いと患者が訴へる)に注射針を入れて液を注入するに可なり有効に作用致しました。

答

内 田 辰 雄

ロイムゾールに關する御追加を謝す。大いに試みらるべきものと信ず。

質 問

飯 田 竹 世

ヘクセンシユースの對症療法について

答

内 田 辰 雄

安靜第一、患者には保温の意味にて、腰部クワイロ等を用ひせしむ。又超短波療法、撒曹劑の經口的、非經口的投與を行ふも可。激症には鎮痛劑を用ふ。

追 加

吉 岡 彌 生

内膜炎、子宮後屈及後壁癒著にて剝離するため通院をすゝめ治療中、段々痛みはつよく二ヶ月後流注膿瘍を認む。本院を紹介せるも患者は他の病院へ行く、今猶残念に思ふ。

追 加

内 田 辰 雄

先程野見山氏より四十肩の追加あり、これに關して一言したし。先達吉岡會長、右肩關節部の激痛あり。短波療法をおすすめしたるに、却つて疼痛強度となりたり。之を如何に解すべきや會員諸氏の御批判を待つ。

動物體內に於けるコレステリン類の機能に就て

東京女子醫學專門學校醫化學教室

教 授 戸 田 邦

コレステリンの化學的構造は左圖の如きチクロベンタノフェナンツレン核に種々の側鎖が結合したものである。斯くの如き化學的構造を有する物質は動物體內に於ては主としてコレステリンであるが、其他に男女性ホルモン、ビタミン D の前階級、膽汁酸等である。而して之等の中ホルモン、ビタミン、膽汁酸等の生物學的